

令和7年度 第1回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 令和7年7月15日（火）午後1時30分～

【場 所】 豊田市役所 南52会議室（南庁舎5階）

【出席者】 （委 員） 伊藤 央二 （中京大学スポーツ科学部 教授）《会長》
粕谷 浩二 （（公財）豊田市スポーツ協会 常務理事）《副会長》
伊藤 宏志 （愛知県中小学校体育連盟豊田支所 支所長）
梅村 郁仁 （（株）名古屋グランパスエイト 広報・ホームタウン部 部長）
太田 明李 （公募委員）
清水 弥生 （（一社）豊田市身障協会 副会長）
杉本 由香里 （豊田市女性スポーツ団体協議会 副会長）
手嶋 道雄 （豊田市スポーツ少年団 本部長）
寺尾 悟 （トヨタ自動車(株)トヨタスポーツ推進部スポーツ支援室パートナーシップ推進Gグループ長）
西脇 委千弘 （（株）豊田スタジアム 取締役）
仁村 保郎 （豊田市スポーツ推進委員協議会 会長）
野尻 雅代 （公募委員）

【欠席者】 築瀬 歩 （地域スポーツクラブ会議 代表幹事）

【事務局】 塚田 知宏（魅力創造部副部長） 中野 洋介（スポーツ振興課課長）
鷹見 英志（スポーツ振興課副課長） 榎津 祐樹（スポーツ振興課担当長）
藤村 修祐（スポーツ振興課担当長） 宇佐美 雅也（スポーツ振興課担当長）
沢田 浩明（学び体験推進課担当長） 長谷川 眞子（スポーツ振興課主査）
北田 青空（スポーツ振興課主事）

【傍聴人】 なし

【次 第】 1 事務局挨拶
2 委員委嘱
3 会長挨拶
4 議題
（1）（仮称）第5次豊田市生涯スポーツプラン骨子（案）について
（2）とよた地域クラブ活動について（報告）
5 その他

【会議録】

■会長・副会長の選任

事務局：今年度委員の改選に伴い、豊田市スポーツ推進審議会条例第6条の規定により会長・副会長は委員の互選により選出したいと思う。立候補する方はいるか。

委員一同：立候補なし

事務局：特に立候補がないようならば、事務局からの提案として前回に引き続き会長を中京大学の伊藤央二様に、副会長を豊田市スポーツ協会の粕谷浩二様にお願いしたいと思うがいかがか。

委員一同：異議なし

事務局：皆様、異議なしとのことであったため、会長を中京大学の伊藤様、副会長を豊田市スポーツ協会の粕谷様にお願いする。

■会長挨拶

会 長：昨年度に引き続き、会長という役目を引き受けさせていただく。ご存じかもしれないが、スポーツ基本計画が改正され、これまでの「する」「みる」「支える」というスポーツの3つの関わり方に加え、「集まる」「つながる」という2つの関わり方が盛り込まれた。例えば、スタジアムやアリーナに人が集まって、そこでスポーツを通して人々が交流するという意味で、「集まる」「つながる」が加わっている。この考え方は、豊田スタジアムを核としたスポーツ振興に非常に通じる部分だと思う。また、韓国出張時にサッカーワールドカップのスタジアムを視察した。試合はなかったが、サッカーのミュージアムやショッピングモール、フードコート等に人々が集まって交流をしていた。スタジアムで試合がなくても人が集まってスポーツを通じて交流するようなきっかけづくりを豊田市でも推進していければと思う。本日は、生涯スポーツプランの骨子策定の非常に大事な議論になるため、積極的な発言をしていただければと思う。

■議題（1）（仮称）第5次豊田市生涯スポーツプラン骨子（案）について

事務局：資料に基づき、（仮称）第5次豊田市生涯スポーツプラン骨子（案）について説明

会 長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委 員：現行のプランでも、こどもの「する」スポーツについて記載されており、次期プランの骨子（案）でも明記されている。しかし、自分の住んでいる地域を見ると、お金や送迎の負担等で、こども達がスポーツ活動に参加出来ていないという現状もある。過去に自分が中心となり、子ども会でフットサルを企画したが、練習の成果を披露できるような場がない状況。

かつては、市内でフットサル大会を行っていたようだが、今はそうしたものはない。そうした現状を市には知っておいてもらいたい。企業との連携も大切だが、身近な地域でスポーツをやりたいと思っているこども達をすくい上げることが必要になってくる。今後、体育館にも冷房が入り、費用負担が増えることが予想されるため、そこに市の補助や斡旋があるといい。また今回のプランで、「楽しむ、支える」スポーツの取組が「する」スポーツに繋がれられるようにしてほしい。

事務局：最後に委員が言われていた部分について、こども達の「する」スポーツの環境づくりのためには、「支える」側の環境づくりも必要になると考えており、次期プランではその環境が整備できるようにしていく。また、最初に言われていた、自主的な団体への斡旋等の支援については今後検討していく。委員がおっしゃるとおり、子ども会の活動や部活動の縮小でこども達のスポーツをする機会が減ってきている。現在中学校では、部活動の地域展開を進めている。小学校では各学校に、地域学校共働本部が設置されている。どのような形になるかは分からないが、地域学校共働本部を中心として教室等が実施できるような取組も検討していく。また、豊田市スポーツ協会の加盟団体等、様々なスポーツ団体の活動情報の周知も必要と考える。

委員：先ほど委員が言われていた、子ども会のフットサルの大会がないということに対しての意見だが、昔子ども会のフットサル大会の決勝ラウンドは豊田スタジアムで開催されていたことはご存じだと思う。コロナ禍を経て、スタジアムでの大会自体は実施されなくなってしまったが、今でも子ども会で主催をしている交流大会が存在している。参加枠等の制限はあるかもしれないが、全く試合の機会がなくなっているわけではないことは理解してもらいたい。

委員：スポーツツーリズムについてだが、豊田スタジアムで4月に全日本ランバイク選手権が開催され、2日間でそれぞれ約1,500人が来場した。アジア圏からの参加者もいたようで、参加者の家族も含め、多くの人が市内に宿泊したのではないかと思われる。資料内のスポーツツーリズムは豊田スタジアムやスカイホール豊田での「みる」スポーツを意識しているように感じたが、今回のランバイクやスカイホール豊田で開催されるラージボール卓球、山間地域でのスポーツ合宿等、「する」スポーツもスポーツツーリズムの対象として捉えていくべきだと思う。また、資料内のスポーツツーリズム評価指標の基準値だが、2019年は、ラグビーワールドカップの開催や、コロナ禍で年明けのJリーグの試合が中止となるなど、イレギュラーな年であった。そのため、2018年を参考に基準値を設定した方が良いと思う。

事務局：基準値については、委員からの意見も参考に検討させてもらおう。また、「する」スポーツについても、スポーツツーリズムの対象として捉えて、大会の誘致に取り組んでいきたい。

会 長：自分もスポーツツーリズムをテーマに研究を行っている。観戦型だけでなく参加型イベントも視野に入れつつスポーツツーリズムを広い視点で捉える必要がある。豊田市は自然豊かな環境を有しているため、こうした自然資源を生かしたアクティブスポーツツーリズムを推進していくことも必要だと思う。

副会長：資料内の基本方針４で、「安心・安全・快適にスポーツに取り組める環境を構築する」とあるが、現行のプランでは「安全・安心」となっており、現在の案とは逆になっているが意図はあるのか。

事務局：特に意図はなかった。今回は、「快適」という文言も記載しているため、「安全・安心・快適」の方が良いと思う。修正したい。

副会長：また、骨子の中で施設機能の向上とあるが、空調の導入以外は何を想定しているのか。

事務局：Wi-Fi の設置やトイレの洋式化等を想定している。訪れた人が喜び、スポーツツーリズムを推進していけるようにしていきたい。

副会長：スカイホール豊田でもこの酷暑の影響をかなり受けている。数年前までは、７月から９月までの空調運転で問題なかったが、現在は６月や１０月も空調を使用しないと競技ができない状態である。また、これまで夏に開催していた大会を春や秋に移したいという主催者のニーズも高まっている。豊田市のスポーツ施設は、他自治体と比べ、使用料を安価に設定しているようだが、今後、市内のスポーツ施設に空調が設置されていくのであれば、安全な利用環境を確保するため料金体系の見直しも含め、しっかりと整理していったほしい。

委 員：資料の「３ 現状・課題」の「こどもの「する」スポーツの推進」の中に、部活動の地域展開を追加し、市が課題としてしっかりと認識していることを記載してほしい。また、スポーツを「支える」の評価指標として「とよた地域クラブ活動の指導者数」を掲げているが、２０２６年には地域クラブ活動に完全に移行することを指標として記載してもらうのが良いのではないかと。豊田市の行政計画に明記してもらうことで、学校現場も安心して、より積極的に地域クラブ活動に向けた協力や調整を行っていけると思う。

委 員：部活動の地域展開に向けた現場の進捗状況はどのようになっているのか。

委 員：正直なところ、学校ごとで進捗状況にかなり差がある。本校では、指導者が平日の午後４時に来ることは難しいと考え、保護者に見守りを行ってもらうよう、協力体制をつくりつつある。

また、地域展開の内容についてそれぞれの部活動で懇談会を行い、校長自身の口から説明するようにしている。自分自身の感触としては、進んできていると思う。

委 員：部活動でなくなったら、下校時刻はどうするのか。

事務局：平日の活動については夏場は日没までとし、冬場は活動休止を想定している。

■議題（２）とよた地域クラブ活動について（報告）

事務局：資料に基づき、とよた地域クラブ活動について説明

会 長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委 員：豊田市が進めている部活動の地域展開の内容について、在学生や、これから中学生になるこどもや保護者に対して、何か説明を行っているのか。自分自身も小学６年生のこどもがいるが、地域クラブ活動の詳しい内容が分からず、とても不安を感じている。この夏休みに中学校の入学準備を各家庭で始めているが部活動に入るのか、民間のクラブに入るか悩んでいる人が多い。なるべく早急に、こどもや保護者に向けて説明いただきたい。

事務局：中学生に対しては、学校と連携し、授業参観や入学式などの機会を捉え、保護者への説明を実施している。小学生に対する説明については、具体的な動きが取れていないが、今年度実施したとよた地域クラブ活動の愛称の募集に合わせて、「きずなネット」でとよた地域クラブ活動の情報を発信する等、周知に努めている。それだけでは不足していると改めて認識したため、対応を検討する。

委 員：３０年ほど前の話だが、講習を何時間か受けるとスポーツ指導員として資格を取得できる市の人材登録制度があった。現在はその制度は活用されていないようだが、かつて制度に登録していた人に向けて、地域クラブ活動の人材バンク登録を呼びかけることも検討してみたい。

事務局：過去の記録を調べ、活用できるか検討する。

委 員：豊田市の部活動の地域展開の取組は他自治体と比べても大変素晴らしいものとなっている。プロスポーツチームのため、地域指導者を派遣することは難しいが、地域指導者に対して指導のノウハウを伝えることはできる。地域クラブ活動の取組と併せて、小学生のスポーツ実施率を高める取組にも力を入れてもらえると良い。

委 員：既存の部活動は、キャプテン・副キャプテンがいてチームをまとめる等、学校の勉強だけでは学べないことを学ぶ良い機会となっていると思うが、とよた地域クラブ活動に移行した場合、それらは失われてしまうのか。

事務局：指摘の点は、部活動が有する教育的意義を、とよた地域クラブ活動に継承することとしている。そのために、地域指導者が教員のサポートを受けながら一緒に指導をする期間を設ける、指導者が指導前に閲覧する研修動画に教育的意義の内容を盛り込む等の対応を講じている。

会 長：部活動の地域展開プランの資料にも、第5次豊田市生涯スポーツプラン骨子（案）の資料同様、市のローカル目標のアイコンを記載した方が良いと思う。

事務局：記載したい。

以上